

疾病予防や健康づくりを効率的・効果的に

上土幌町国民健康保険 保健事業実施計画(データヘルス計画)を策定

上土幌町国民健康保険(国保)では、健診データやレセプト(診療報酬明細書)データの情報を分析し、潜在する健康課題や地域特性、予防効果が大きく期待できるものを把握したうえで、今後取り組むべき対策や保健事業を示したデータヘルス計画(平成27～29年度)を策定しました。

【データヘルス計画策定の目的】

健診データやレセプトデータの情報を分析・活用することで、国保の加入者みなさんの疾病予防や健康づくりを効率的・効果的に行います。

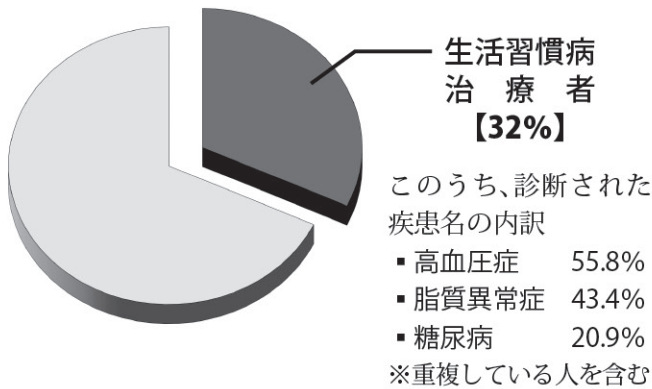
【データ分析でわかったこと】

《医療の分析》

国保加入者の32%が生活習慣病の治療のため病院に通っています。

さらに、より重症化した疾患である「脳血管疾患」「脂質異常症」「糖尿病性

国保被保険者の32%が生活習慣病治療者



生活習慣病とは

生活習慣の積み重ねが原因となって発症する病気の総称です。

【循環器系の疾患】

・高血圧症 ・動脈硬化 ・心筋梗塞 ・脳梗塞、脳卒中

【内分泌、栄養および代謝疾患】

・肥満症、脂質異常症 ・糖尿病 など

腎症」の治療をしている人を見ると、8割以上が高血圧症、6割以上が脂質

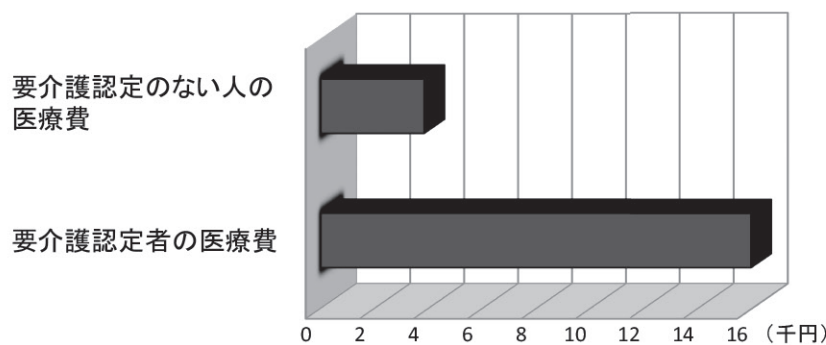
異常症、3割以上が糖尿病の治療者となっていました。
糖尿病が悪化した場合、人工透析が必要となる場合があり、治療にかかる医療費は、年間で一人当たり約5百万円にもなります。

《介護の分析》

上土幌町では、介護保険の1号被保険者(65歳以上)の約6人に一人が要介

護認定を受けています。要介護認定を受けることになった原因疾患は、血管疾患が全体を占めています。
介護認定を受けている人の医療費は、受けていない人より医療費が高いこともわかりました。

介護を受けている人と受けていない人の医療費比較(40歳以上)



《健診の分析》

国保加入者の特定健診の結果では、男性の4人に一人が、女性の10人に一人がメタボリックシンドローム※の該当者でした。また、男性の40～64歳の5人に一人がメタボリックシンドローム予備群という結果でした。

※メタボリックシンドローム

内臓脂肪の蓄積を示す目安としてウエスト(腹囲)が男性85cm以上、女性90cm以上を必須条件として、血圧、血糖、血中脂質の3つのリスクのうち、2つ以上が基準値を超えた者を「メタボリックシンドローム該当者」、1つ超えた者を「予備群」としている。

また、男女ともに「空腹時血糖」「HbA1c※」が基準としている値より高い人が特に多く、北海道平均を上回っています。

※HbA1c

過去1～2か月の血糖状態を示すもの。

【成果目標】

データ分析を踏まえ、目標を設定しました。

《中長期的な目標》

◆6か月以上の入院における疾患や、長期化することで医療費が高額となる疾患で、介護認定者の有病状況が多い疾患でもある虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病性腎症の患者数を減らし、一人あたりの医療費を増加させない。

◆重症化予防、医療費適正化の観点から、入院する前に治療のための通院を勧め、生活習慣病の入院1件当たりの費用額を下げたい。

《短期的な目標》

◆虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病性腎症の血管変化における共通リスクとなる高血圧、脂質異常症、糖尿病、メタボリックシンドロームを減らしていく。

◆そのためには、健診の機会を提供し、状態に応じた保健指導を行い、生活習慣病の発症予防及び重症化予防を図る。

【評価の方法の設定】

経年変化や国、北海道、同規模保険者との比較を行い、毎年評価します。

【データヘルス計画の見直し】

最終年度となる平成29年度において、計画に掲げた目的・目標の達成状況

の評価を行い、次期計画に反映させていくこととします。

健診データのうち有所見割合の高い項目

男 性	空腹時血糖	HbA1c	尿酸	LDL-C (悪玉コレステロール)
全 国	26.5%	50.7%	12.0%	48.9%
北海道	27.6%	51.1%	12.5%	50.1%
上士幌町	31.9%	74.9%	17.4%	55.1%

女 性	空腹時血糖	HbA1c	尿酸	LDL-C (悪玉コレステロール)
全 国	15.8%	50.6%	1.5%	58.9%
北海道	15.9%	48.0%	1.6%	57.8%
上士幌町	16.7%	65.2%	1.8%	52.1%

☞計画書は町のホームページ(<http://www.kamishihoro.jp/page/00000226>)でご覧いただけます。

※お問い合わせは、保健福祉課国保医療担当(☎2-4295)まで